

# そよ風

豊 浦 小 学 校  
校 長 室 だ よ り  
2 0 2 1 年 1 2 月 1 日  
第 1 0 号

## □ 人への意識

先日、小雨の降る日の朝、交通指導を行うために正門付近の横断歩道に立っていました。すると、1年生の女の子が私の傍まで来て、「雨の中、交通指導をありがとうございます。ご苦労様です。」と言って礼をして、学校へ入っていきました。まあ、なんと気の利いたことを言う子でしょう。びっくりするとともに、その日は、日頃以上に良い気分で過ごすことができました。



その1年生は、私の姿を見かけ、天気のことも考えながら、思ったことを言葉として表現していました。自分以外の人を意識して、相手や状況に応じた言葉を用いることは、人と接するうえでとても大切なことです。

子供たちは、学校生活の中で同級生、下級生、上級生など様々な自分以外の児童と接します。本校には、多くの児童が学んでいるだけに、その中にはいろいろな特性をもっている子供たちも学校生活を送っています。例えば、人との関わりが特に苦手な子、大きな集団の中での生活よりも少人数での生活の方が向いていて特別支援学級で学んでいる子、自分の考えや思いを表現することが苦手な子、身体的な面で日常生活において配慮を要する子など様々な事情をもちながら、学習や生活をしている子供たちが本校にも在籍しています。自分以外のたくさんの友達と接することができる機会がたくさんあるだけに、人への接し方について本校の児童は学ぶ機会が多くあるのではないかと考えています。

学校生活の中の様々な場面で多くの子供たちと接する中で、子供たちは人への意識を育み、相手の立場や気持ちを考えるなど、人への接し方を学んでいきます。ときには、何気ない言葉や行動が相手を困らせてしまうこともあると思います。その都度、指導の場として行動を振り返らせ、正しい行動について根気強く指導してまいります。

学校生活の中で、子供たちは授業においてお話をしに来てくださる地域の方々とふれあうこともあります。日ごろ接する友達や私たち教職員以外の地域の方々と接して、あいさつをしたり、感謝の思いを伝えたりすることは、子供たちの中にある人への意識の幅を広げ、豊かにすることになると思います。本校は、地域の方々と接する機会が多いことも恵まれている点だと思っています。

学校生活の中の様々な機会をとらえ、人への接し方について今後も指導していきます。

## □ 豊浦小の歴史⑦～より豊かな学校へ～

昭和54年に学校分離が実現し、長府松小田北町に「長府小学校」が誕生しました。

分離をきっかけに、「のびのびと遊べて、たくましく体を鍛えられる運動場を子供たちに用意しよう」という育友会の気持ちが一つになり、「教育の森」が完成しました。

その「教育の森」については、子供たちに大変人気がある施設です。今後も使用することができるよう、来年度150周年を迎えるにあたり、傷んでいるところを補修するための準備が進められています。

### 3年生の

### ほっと一息 心にそよ風 ～道徳の授業



3年生は11月の道徳の時間に『お母さん、かぜでねこむ - ちびまる子ちゃん -』という教材で、「家族への思いやり」について考えました。この教材は、題名のとおりアニメ「ちびまる子ちゃん」をモチーフにしています。

ある日の夜、まる子はお母さんに「明日学校に雑巾を持っていかなくてはならないので、今すぐ作ってほしい。」と無理なお願いをします。次の日、お母さんは風邪で寝込んでしまいました。寝込んでもお母さん、まる子や家族のことを考えているお母さんの姿を見て、お母さんはこんなに自分たちのことを大事にしていたのに、自分はお母さんのことを考えていなかったことに気付かされます。

3年生の子供たちは、家族のことを大切に思っているつもりでも、ついむきになってしまうことや言い返したりしてしまうことがある年頃です。この学習では、まる子やその家族を自分や自分の家族と重ねて考え、友達と意見を交流することで家族の大切さに改めて気づき、感謝の気持ちをもちました。子供たちの学習の振り返りを紹介します。

- ・ お母さんは、目が痛くなった時すぐに薬を買ってきてくれます。次は私がお母さんに恩返ししたり、大変なことがあれば助けたりしたいです。
- ・ ぼくのお母さんは、いつもぼくのことを心配してくれています。何でもお母さんまかせにするのではなく、少しでも自分ですること、お母さんの負担を減らしたいです。そして家族のみんなのことを思い、大切にしたいです。
- ・ 「いつもありがとう」という気持ちをもって、お手伝いをしたいです。
- ・ お母さんは、私や弟の未来のことまで考えてくれています。今度は、私ができることをお母さんにしてあげたいです。

これからも、家族のことを大切にできる心優しい子供たちでいてほしいと思います。